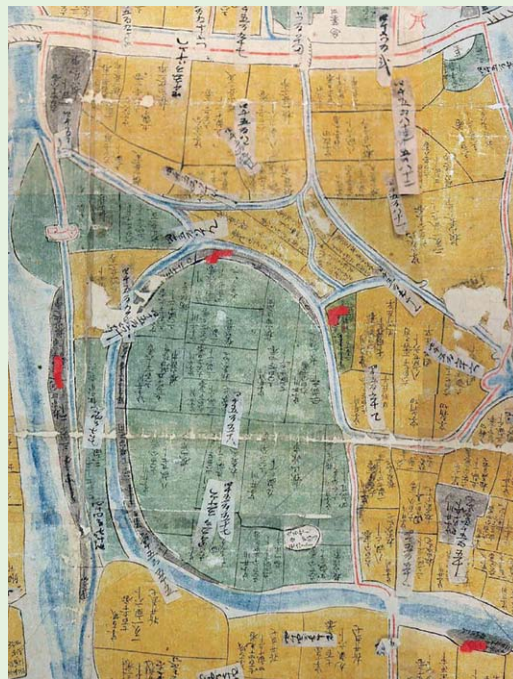


史跡小笠原氏城跡整備基本計画 概要版

松本城につらなる城の移り変わりを体感する



現在の井川城跡



明治時代の井川城跡（「小島村絵図」）



林城跡（左：大城 右：小城）

令和6年（2024）月
松本市教育委員会

おがさわらししろあと 史跡小笠原氏城跡の概要

史跡小笠原氏城跡は、平地に築かれた井川城跡と山地に築かれた林城跡からなり、室町時代に信濃守護であった小笠原氏の拠点として機能していました。

井川城跡は、発掘調査により、周囲を堀や川、土塁で囲まれた南北100メートル、東西70メートルの長方形を呈する大規模な居館跡であることがわかりました。居館跡の範囲は、大がかりな盛土造成により周囲より高く築かれていました。居館跡からは礎石建物跡等が確認され、中国産や瀬戸産の陶磁器（当時は高級品で所有者の権威を示すものでした。）が出土しています。

林城跡は、大城と小城の2つの城で構成され、周囲に石積を巡らせた主郭、尾根上に築かれた無数の曲輪群、塹壕と一体化した堀切等、松本平に特有な戦国時代の山城の姿を良好に残しています。

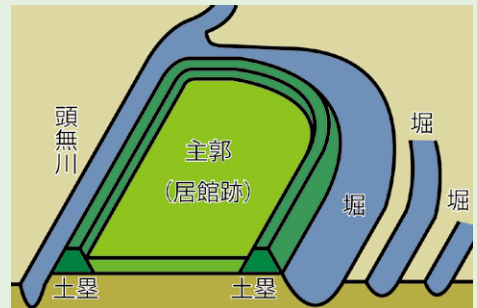
また、大城と小城の間の谷部には居館を始めとする小笠原氏の本拠があったと推測され、平成14年度に行われた林山腰遺跡の発掘調査では、その一端を示す中世の遺構や遺物が確認されました。井川城跡と林山腰遺跡の発掘の成果から、15世紀末までに小笠原氏の拠点が井川城から林城へと移動したことが明らかになりました。



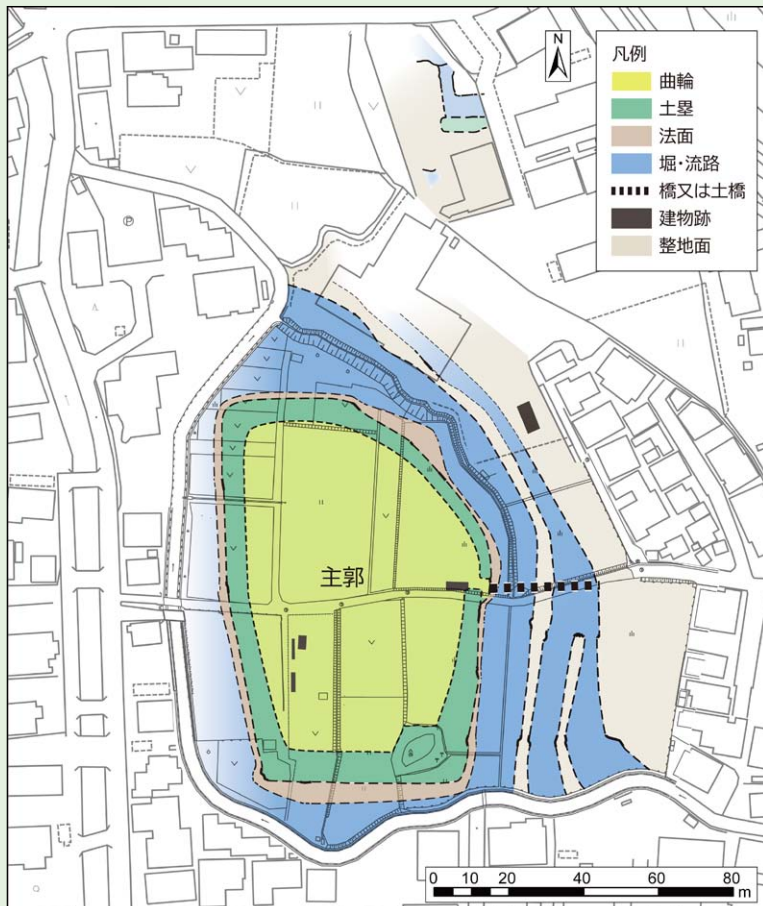
井川城跡の礎石建物跡



井川城跡の堀跡



井川城跡の遺構イメージ



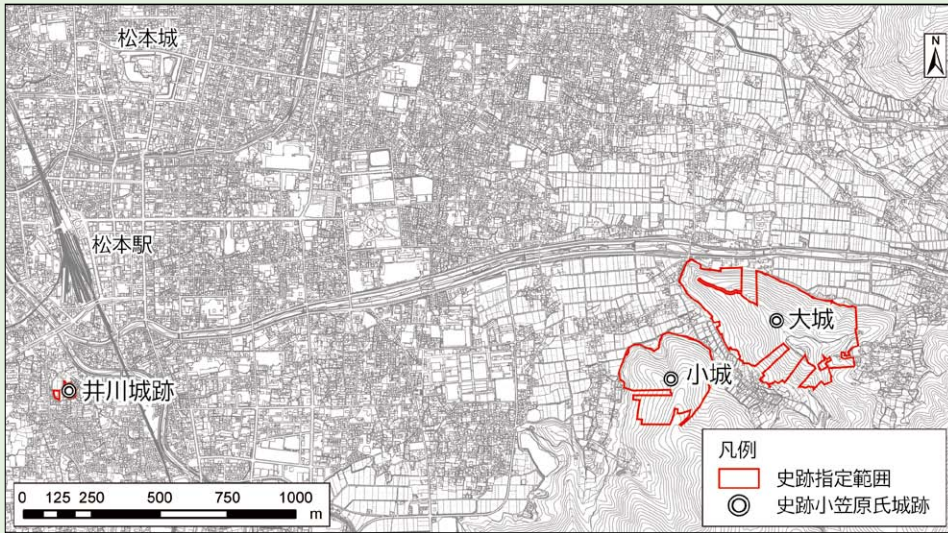
井川城跡の遺構



井川城跡で見た陶磁器
青磁碗・染付碗：中国産 天目茶碗：国産



大城と小城に挟まれた林山腰遺跡



史跡小笠原氏城跡位置図



堀切（大城）



きりぎし
切岸と曲輪（大城）



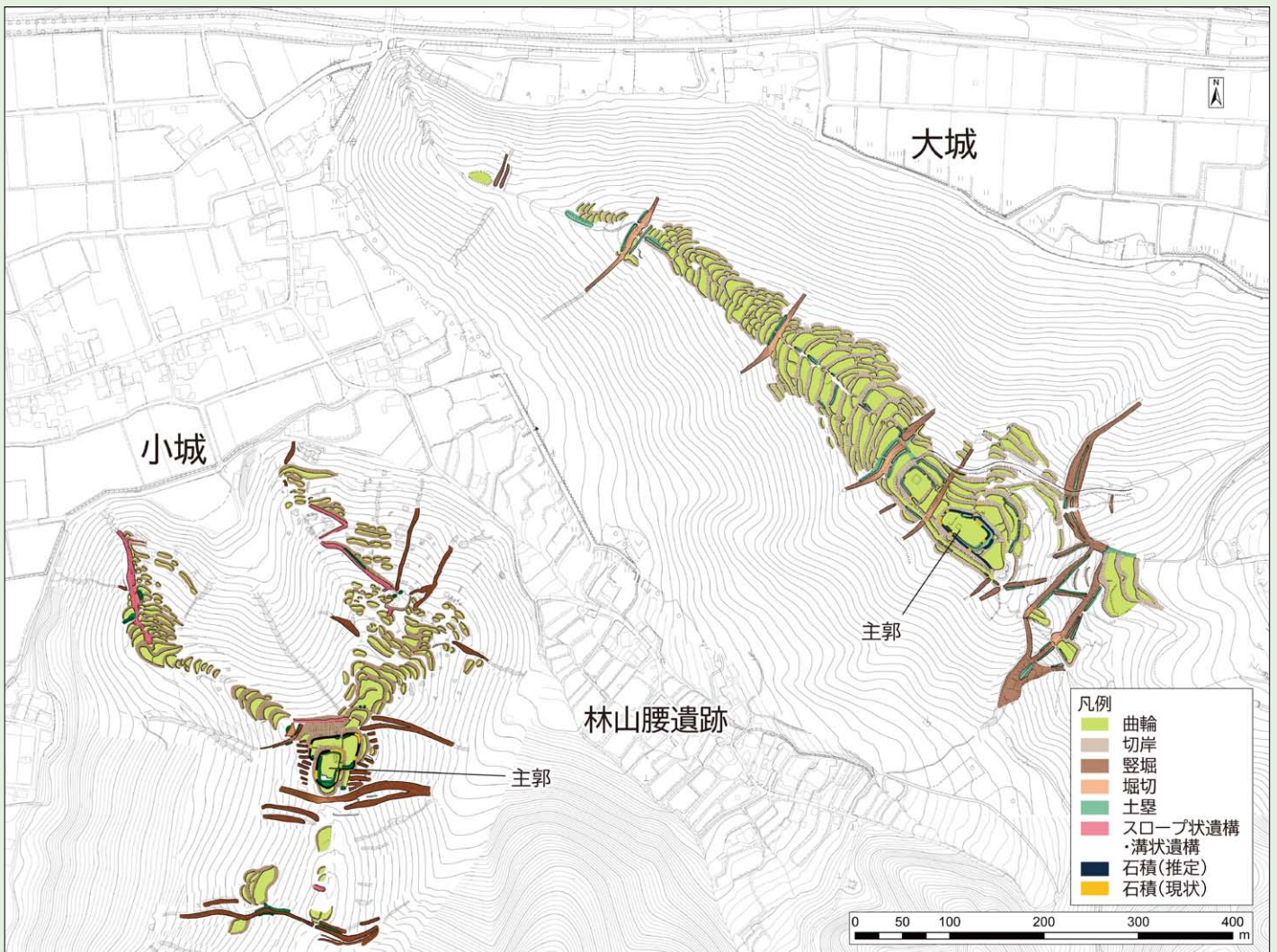
主郭（小城）



石積（小城）



主郭の土塁（大城）



林城跡（大城・小城）の遺構

計画の目的

史跡小笠原氏城跡整備基本計画は、令和3年度に策定した史跡小笠原氏城跡保存活用計画で整理した史跡の抱える現状と課題、基本方針等に基づき、史跡小笠原氏城跡の今後の具体的な整備の内容やスケジュールを示しています。史跡を適切に保存し、多くの人から大切にされ、次世代へ継承されていく魅力的な史跡となる整備を行うことを目的として策定するものです。

計画の対象範囲と期間

本計画の対象範囲は、史跡指定地及びその周辺とし、令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間とします。

史跡小笠原氏城跡の本質的価値（国指定史跡としての学術的価値）

1 信濃守護小笠原氏の居城（本拠地）であること

小笠原氏城跡は、小笠原氏が信濃守護に任じられてから、武田晴信（信玄）の侵攻により信濃を追われるまでの居城（本拠地）であることが、文献史料、発掘調査等により明らかにされています。

2 室町時代から戦国時代への領主の居城（本拠地）の変遷を知ることができる

中・近世の史料と井川城跡、林山腰遺跡の出土遺物から裏付けられた、小笠原氏の井川城から林城への拠点移動は、戦国時代の軍事的な緊張の高まりの中、列島規模で行われた平地居館から山城への地域領主の拠点移動の状況を具体的に示しています。我が国における室町時代から戦国時代に至る領主の居城（本拠地）の在り方を示す典型例であり、保存状態も良好であることに極めて高い価値があります。

3 信濃を取り巻く諸勢力の軍事的、政治的な動向をうかがうことができる

3城跡は、信濃守護に任じられてからの小笠原氏による信濃支配、小笠原氏の分裂、武田晴信の信濃侵攻による小笠原氏の信濃退去に至るまでの変遷を示すとともに、室町幕府や鎌倉府、上杉、徳川、北条といった信濃を取り巻く諸勢力の政治的、軍事的な動向を知る上でも重要です。

4 中世的な支配構造から近世的な支配構造への変化を捉えることができる

戦国時代から江戸時代初めにかけて、方形居館や山城を中心とした中世的な支配構造から、平地の拠点城郭を核とする近世的な支配構造へと変化を遂げました。その過程を、松本市域の4キロメートル四方の中に所在する、小笠原氏城跡と松本城という中・近世の城郭遺産によって総体的に捉えることができます。

整備の基本方針

信濃守護小笠原氏の拠点移動や府中一帯の政治的、軍事的動向を城郭遺構から体感できる整備を目指す。

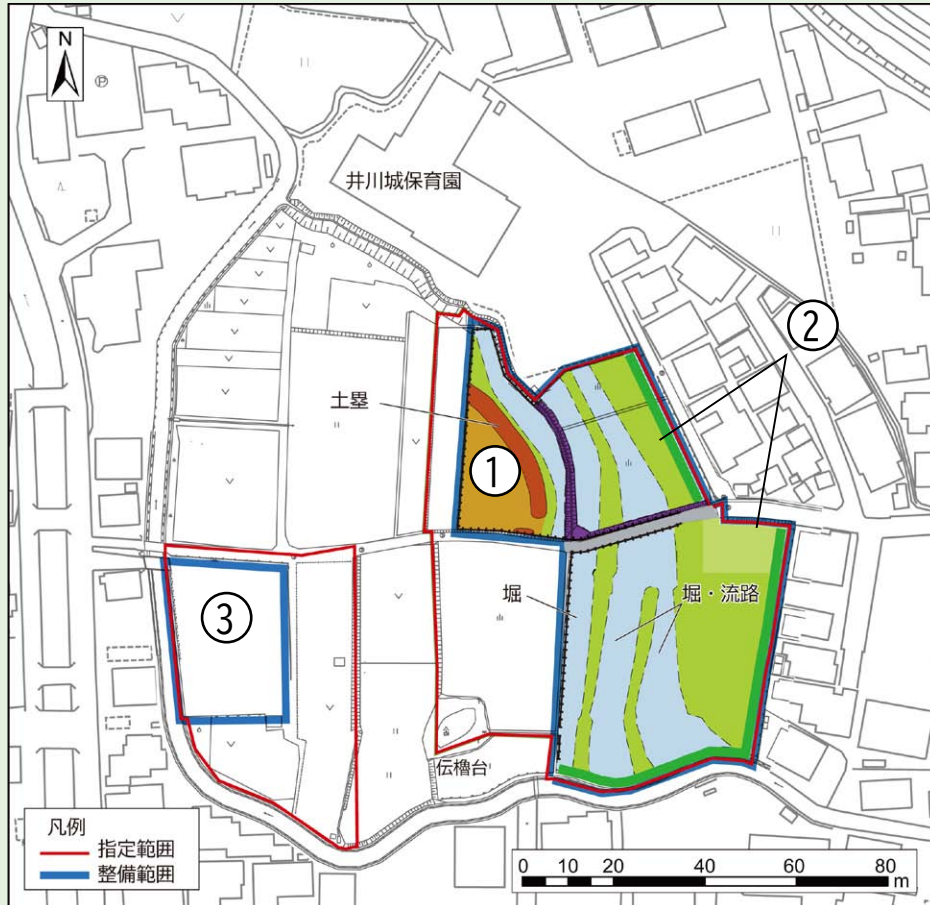
- 1 遺構の保存を第一とし、段階的な整備を行います。
- 2 史跡の本質的価値を多くの人に理解してもらえよう、調査研究の成果や整備過程等の情報を発信しながら整備を行います。
- 3 史跡の景観に調和した整備を行い、地域住民や見学者が安全・快適に史跡を活用できるよう、市民に親しまれる整備を行います。
- 4 室町時代から戦国時代までの城館の姿を体感できる整備を行います。



井川城跡の整備計画図

井川城跡整備の基本方針

- 周辺の土地利用状況や生活空間に配慮しながら、市有地を中心に段階的な整備を実施します。
- 居館跡であることが視覚的に分かるように、遺構表示やサイン類設置を行います。
- 市街地に位置し、保育園も隣接していることから、市民の憩いの場や地域活動の場としての活用が可能となるよう整備を行います。



①・②土塁・堀跡等の遺構表示（令和11～14年度）

- ①主郭の土塁や堀跡等の遺構の範囲を、カラー舗装等を用いて表示し、居館の構造を現地で理解できるようにします。
- ②主郭東側の範囲は芝を張り、堀・流路等の遺構の範囲をカラー舗装等を用いて表示します。

②排水対策（令和11～14年度）

主郭東側の範囲の排水対策として、盛土や排水路整備を行います。

①～③発掘調査の実施（令和7～10、15年度）

整備範囲及び西側公有地の地下遺構の状況を確認するための発掘調査を実施します。

説明板、案内板等の整備（令和12～14年度）

居館跡の構造等を理解してもらえるよう、説明板、案内板等のサイン類を設置します。

管理・便益施設の設置（令和11～14年度）

生垣、柵等の管理施設、東屋・ベンチ等の便益施設を設置し、見学環境を整備します。

林城跡 大城・小城の整備計画図

林城跡整備の基本方針

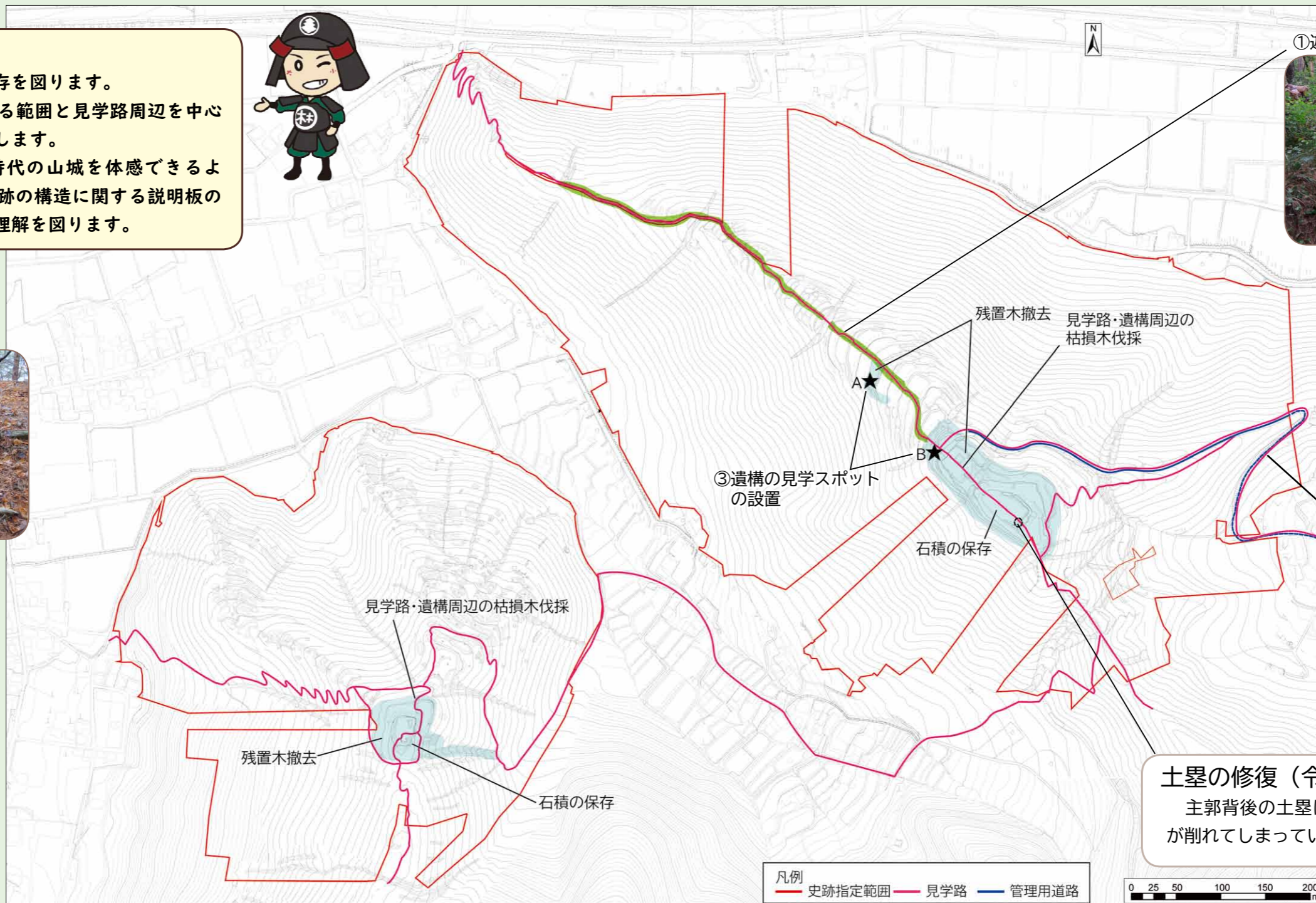
- 石積等の主要遺構の保存を図ります。
- 主要遺構が集中している範囲と見学路周辺を中心に段階的な整備を実施します。
- 遺構を見ながら戦国時代の山城を体感できるように、特徴的な遺構や城跡の構造に関する説明板の設置等によって史跡の理解を図ります。



石積 (大城主郭)



松枯れ枯損木 (大城主郭)



①遊歩道部分の遺構・遊歩道の修復



大城の遊歩道

②管理用道路の修復



車道法面のオーバーハング

土塁の修復 (令和 8 ~ 10 年度)

主郭背後の土塁は、見学路が通っている部分が削れてしまっているため、修復を行います。

見学路・遺構周辺の枯損木の伐採、残置木の撤去(令和 6 ~ 15 年度)

見学路や主要遺構周辺の松枯れ等枯損木を伐採し、見学者の安全の確保、倒木による遺構の破損を防止します。また、曲輪等に残置されている伐採木を撤去し、遺構を見やすくします。

石積の保存 (令和 6 年度~)

詳細測量による石積の現状記録、破損状況等の調査を行います。また、定点測量等により、石積の破損状況等の変化を経過観察します。

説明板、案内板等の設置 (令和 6 ~ 10 年度)

見学者が、土塁や石積といった遺構を見ながら、山城の構造や史跡について理解を深めるための説明板や案内板等のサイン類を設置します。

①遊歩道部分の遺構と遊歩道の修復 (令和 7 ~ 13 年度)

遊歩道が降雨時の水みちとなり、流水によって遺構や遊歩道が削られてしまっています。こうした部分を埋め戻し、遺構の修復を行った上で、遊歩道を修復します。

②管理用道路の修復 (令和 7 ~ 10 年度)

橋倉地区から主郭へ通じている車道を史跡の見学路・管理用道路として位置付け、法面オーバーハング箇所の修復、路面補修等を行います。

③遺構の見学スポットの設置 (令和 8 ~ 10 年度)

- A : 曲輪を観察できるように、除草、ウッドチップの散布、説明板の設置等を行います。
- B : 土塁の上から堀切を見下ろし、規模を体感できるように、階段等の設置を行います。

事業スケジュール

項目		前期 (R6~R10)					後期 (R11~R15)					中・長期 R16~
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
井川城跡	発掘調査		東側郭外	主郭遺構表示	東側郭外	東側郭外						西側市有地
	サイン類整備	内容検討		基本設計				実施設計	整備			
	地形造成 遺構表示 管理便益施設						基本設計	実施設計	整備			
林城跡(大城)	発掘調査	主体部	管理用道路	遊歩道		整備箇所						
	石積現状記録 調査	詳細測量	現状記録	定点観測・経過観察								
	土塁等修理			基本設計	実施設計	整備						
	枯損木等伐採	1年次		2年次			3年次					
	残置木の撤去							1年次	2年次	3年次		
	毀損遺構・遊 歩道の修復		表流水調査 測量	発掘調査		基本設計	実施設計	修復				
	管理用道路整 備		上面発掘	基本設計	実施設計	整備						
	サイン類整備	内容検討		基本設計	実施設計	整備						
	見学スポット 設置			基本設計	実施設計	整備						
	城内通路調査 ・見学路付替 え	城内通路調査							見学路付替の検討・実施			
史跡周囲眺望 の確保									眺望点検討	実施		
林城跡(小城)	発掘調査	主体部										
	石積現状記録 調査	詳細測量	現状記録	定点観測・経過観察								
	枯損木等伐採	作業ヤード検討	1年次		2年次			3年次				
	残置木の撤去											
	サイン類整備	内容検討		基本設計	実施設計	整備						
	城内通路調査 ・見学路付替 え	城内通路調査							見学路付替の検討・実施			
	史跡周囲眺望 の確保									眺望点検討	実施	

発行日 令和6年月

編集・発行者：松本市教育委員会文化財課（史跡整備担当） 〒390-0873 長野県松本市中山3738-1
Tel 0263-85-7064 / FAX 0263-86-9189 / E-mail:bunka@city.matsumoto.lg.jp